



## 2021年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年9月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 神戸物産  
 コード番号 3038 URL <https://www.kobebussan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 沼田 博和  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長 (氏名) 坂本 匡浩 TEL 079-458-0339  
 四半期報告書提出予定日 2021年9月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有 (<https://www.kobebussan.co.jp/ir/news.php>)  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切り捨て)

### 1. 2021年10月期第3四半期の連結業績（2020年11月1日～2021年7月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年10月期第3四半期	267,374	3.1	21,228	13.7	22,205	20.1	14,883	27.7
2020年10月期第3四半期	259,362	17.7	18,679	28.9	18,485	26.6	11,656	25.4

(注) 包括利益 2021年10月期第3四半期 15,439百万円(41.7%) 2020年10月期第3四半期 10,892百万円(19.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年10月期第3四半期	68.83	67.29
2020年10月期第3四半期	54.15	52.89

(注) 当社は、2020年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2020年10月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年10月期第3四半期	150,148	72,569	47.1	325.87
2020年10月期	148,175	59,268	39.0	267.42

(参考) 自己資本 2021年10月期第3四半期 70,650百万円 2020年10月期 57,758百万円

(注) 当社は、2020年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2020年10月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年10月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2021年10月期	—	0.00	—	—	—
2021年10月期（予想）	—	—	—	20.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2020年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2021年10月期の配当予想における1株当たり配当金20円00銭につきましては当該株式分割を考慮した金額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の2021年10月期の配当予想における1株当たりの年間配当金は40円00銭となります。

3. 2021年10月期の連結業績予想（2020年11月1日～2021年10月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	358,000	5.0	29,400	23.3	30,000	26.9	20,000	32.9	92.84

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年10月期3Q	273,600,000株	2020年10月期	273,600,000株
② 期末自己株式数	2021年10月期3Q	56,796,508株	2020年10月期	57,614,064株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年10月期3Q	216,230,356株	2020年10月期3Q	215,261,744株

（注）1. 当社は、2020年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2020年10月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数（普通株式）を記載しております。

2. 2020年10月期の期末自己株式数及び期中平均株式数並びに2021年10月期の期末自己株式数及び期中平均株式数の算定に当たり控除する自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託口）が所有する当社株式176,000株を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年11月1日～2021年7月31日)における我が国の経済は、人手不足や物流面でのコストの増加、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましては、EC事業者やドラッグストアをはじめとした他業種による食品の取り扱い拡大、飲食店のデリバリー代行サービスの台頭等、競争環境は激化しております。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務、外食店舗の営業時間短縮等からくる内食需要の高まりや、店舗における感染拡大防止策の実施等、食品小売業界を取り巻く環境や求められるものもめまぐるしく変化しております。

このような状況の中、当社グループは「食の製販一体体制」の更なる強化というグループ目標のもと、積極的な商品開発を行い、神戸物産グループ全体の競争力を高めてまいりました。また、お客様のニーズを素早く捉えた施策を実施し、高品質で魅力のある商品をベストプライスで提供してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は267,374百万円(前年同期比3.1%増)、営業利益は21,228百万円(同13.7%増)、経常利益は22,205百万円(同20.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,883百万円(同27.7%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度において「クックイノベーション事業」を構成しておりました株式会社クックイノベーション、株式会社ジー・コミュニケーション、株式会社ジー・テイスト(現株式会社焼肉坂井ホールディングス)及びその他連結子会社11社について、2020年4月1日をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。このため、第1四半期連結会計期間より当該報告セグメントを廃止しております。

また、第1四半期連結会計期間より従来「神戸クック事業」としていた報告セグメントの名称を「外食・中食事業」に変更するとともに、当社グループの事業展開、経営管理体制の実態等の観点から事業セグメントの区分方法を見直し、「その他」に含まれていた焼肉事業を「外食・中食事業」に含めております。

#### ①業務スーパー事業

当第3四半期連結累計期間における業務スーパー事業において、ナショナルブランド商品だけではなく国内グループ工場製造や自社直輸入によるプライベートブランド商品をベストプライスで販売する「業務スーパー」の出店状況は、出店58店舗、退店4店舗、純増54店舗の結果、総店舗数は933店舗となりました。

新規出店の内訳といたしましては、直轄エリア41店舗、地方エリア17店舗であります。出店に関しましては関東地方や九州地方への出店を中心に新規出店を進めており、また、営業年数が長くなり老朽化してきた店舗の移転等を積極的にフランチャイズオーナーに勧めております。

業務スーパーの魅力であるプライベートブランド商品が多くのメディアで取り上げられ、業務スーパーの認知度の向上や新規顧客の獲得に繋がったことに加え、新規出店も引き続き好調であることが、経営成績の拡大に貢献したものと考えております。

この結果、業務スーパー事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は262,749百万円(同9.6%増)となりました。

#### ②外食・中食事業

当第3四半期連結累計期間における外食・中食事業において、日本最大級の大型バイキングチェーンである「神戸クック・ワールドビュッフェ」の出店状況は、出店1店舗、退店3店舗、純減2店舗の結果、総店舗数が15店舗となりました。厳選したお肉と店内手作りのデザートを中心に楽しむ焼肉専門店の「プレミアムカルビ」の出店状況は、出店5店舗、退店0店舗、純増5店舗の結果、総店舗数は8店舗となりました。また、日常の食卓の代行をコンセプトとして安全・安心・価格にこだわった中食業態である「馳走菜(ちそうな)」の出店状況は、出店17店舗、退店0店舗、純増17店舗の結果、総店舗数は全国で42店舗となりました。

神戸クック・ワールドビュッフェでは、一部店舗で新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、適宜営業時間の短縮や臨時休業を実施いたしました。それにより、売上高が前年実績を下回りました。一方、プレミアムカルビにつきましては、営業時間の短縮を行ったものの、店舗数の増加や焼肉人気により順調に推移しております。また、馳走菜(ちそうな)につきましては、業務スーパーの来店客数の増加や新型コロナウイルス感染症対策の実施が功を奏し、好調に推移いたしました。

この結果、外食・中食事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,632百万円(同37.7%増)となりました。

#### ③エコ再生エネルギー事業

当第3四半期連結累計期間のエコ再生エネルギー事業においては、新たに大阪府で1ヵ所の太陽光発電所が稼働いたしました。そのため、稼働中の発電所と発電量は、太陽光発電所が17ヵ所で約32.1MW、木質バイオマス発電所が1ヵ所で約6.2MWとなっております。

この結果、エコ再生エネルギー事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は1,981百万円(同10.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は150,148百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,973百万円増加いたしました。主な要因は、国内グループ工場の設備増強や新社屋建設による有形固定資産の増加9,997百万円、商品出荷量の増加に伴う商品及び製品の増加2,063百万円、受取手形及び売掛金の増加1,601百万円及び借入金の返済等による現金及び預金の減少12,449百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は77,579百万円となり、前連結会計年度末と比較し11,327百万円減少いたしました。負債の減少の主な要因は、長期借入金の減少11,304百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は72,569百万円となり、前連結会計年度末と比較し13,300百万円増加いたしました。純資産の増加の主な要因は、利益剰余金の増加11,640百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月期連結業績予想につきましては、2021年6月11日に「連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	69,810	57,360
受取手形及び売掛金	17,546	19,147
商品及び製品	9,065	11,128
仕掛品	298	329
原材料及び貯蔵品	1,222	1,510
その他	4,227	3,164
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	102,156	92,626
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,430	14,124
土地	10,353	13,340
その他(純額)	19,260	23,578
有形固定資産合計	41,044	51,042
無形固定資産	547	866
投資その他の資産	4,426	5,613
固定資産合計	46,019	57,522
資産合計	148,175	150,148

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	22,161	24,174
短期借入金	14,598	15,956
未払法人税等	4,812	3,128
賞与引当金	299	154
その他	5,033	3,098
流動負債合計	46,906	46,512
固定負債		
長期借入金	34,690	23,386
退職給付に係る負債	612	672
預り保証金	6,048	6,395
資産除去債務	332	328
役員株式給付引当金	39	53
その他	276	231
固定負債合計	41,999	31,066
負債合計	88,906	77,579
純資産の部		
株主資本		
資本金	64	500
資本剰余金	8,539	8,665
利益剰余金	60,243	71,883
自己株式	△9,465	△9,332
株主資本合計	59,380	71,716
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	129
為替換算調整勘定	△1,634	△1,195
その他の包括利益累計額合計	△1,621	△1,065
新株予約権	1,510	1,919
純資産合計	59,268	72,569
負債純資産合計	148,175	150,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)
売上高	259,362	267,374
売上原価	222,869	234,963
売上総利益	36,493	32,410
販売費及び一般管理費	17,813	11,181
営業利益	18,679	21,228
営業外収益		
受取利息	213	78
受取配当金	0	0
受取賃貸料	65	45
為替差益	—	512
デリバティブ評価益	—	135
補助金収入	113	202
その他	375	243
営業外収益合計	769	1,218
営業外費用		
支払利息	256	137
賃貸収入原価	21	22
為替差損	22	—
デリバティブ評価損	51	—
貸倒引当金繰入額	434	14
その他	175	67
営業外費用合計	962	241
経常利益	18,485	22,205
特別利益		
固定資産売却益	16	2
関係会社株式売却益	245	—
特別利益合計	261	2
特別損失		
固定資産除却損	21	29
固定資産売却損	39	127
減損損失	1,380	—
店舗閉鎖損失	12	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	112	—
特別損失合計	1,567	156
税金等調整前四半期純利益	17,179	22,051
法人税、住民税及び事業税	6,157	6,669
法人税等調整額	215	498
法人税等合計	6,372	7,168
四半期純利益	10,806	14,883
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△849	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,656	14,883



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)
四半期純利益	10,806	14,883
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	116
為替換算調整勘定	52	439
その他の包括利益合計	85	556
四半期包括利益	10,892	15,439
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,741	15,439
非支配株主に係る四半期包括利益	△849	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年11月1日至2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	業務 スーパー 事業	外食・中食 事業	クックイノ ベンチャー 事業	エコ再生 エネルギー 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	239,825	1,911	15,772	1,788	259,297	64	259,362	—	259,362
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,309	100	—	—	1,409	—	1,409	△1,409	—
計	241,135	2,012	15,772	1,788	260,707	64	260,772	△1,409	259,362
セグメント利益 又は損失(△)	20,316	△24	379	233	20,904	△84	20,820	△2,141	18,679

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、設備賃貸事業、観光事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、セグメント間の内部取引消去であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額△2,141百万円は各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失を1,380百万円計上しております。当該減損損失の計上額は、「業務スーパー事業」セグメントにおいて0百万円、「クックイノベンチャー事業」セグメントにおいて1,379百万円であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の減少による資産の著しい減少)

当第3四半期連結会計期間において株式会社クックイノベンチャー、株式会社ジー・コミュニケーション、株式会社ジー・テイスト(現株式会社焼肉坂井ホールディングス)及びその他連結子会社11社を連結の範囲から除外しております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「クックイノベンチャー事業」のセグメント資産が、24,637百万円減少しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2020年11月1日至2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	業務 スーパー 事業	外食・中食 事業	エコ再生 エネルギー 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	262,749	2,632	1,981	267,364	10	267,374	—	267,374
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,192	107	—	1,300	—	1,300	△1,300	—
計	263,942	2,740	1,981	268,664	10	268,674	△1,300	267,374
セグメント利益 又は損失(△)	23,925	△308	380	23,997	△61	23,935	△2,707	21,228

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、設備賃貸事業、観光事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、セグメント間の内部取引消去であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額△2,707百万円は各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において「クックイノベーション事業」を構成しておりました株式会社クックイノベーション、株式会社ジー・コミュニケーション、株式会社ジー・テイスト(現株式会社焼肉坂井ホールディングス)及びその他連結子会社11社について、2020年4月1日をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。このため、第1四半期連結会計期間より当該報告セグメントを廃止しております。また、第1四半期連結会計期間より、従来「神戸クック事業」としていた報告セグメントの名称を「外食・中食事業」に変更するとともに、当社グループの事業展開、経営管理体制の実態等の観点から、事業セグメントの区分方法を見直し、「その他」に含まれていた焼肉事業を「外食・中食事業」に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。